

健幸登山教室第9回  
比良山系 <sup>じゃだにがみね</sup> 蛇谷ヶ峰 (901m) 登山

秋から冬に変わる山の気象と装備、読図講習

仲井照雄

登山日：2021年12月12日(日)

参加者：会員－松下征文(L)・村上 正(SL)・野村綾子・松下征悟、今中三恵子

計5名

友の会会員－上野陽子・仲井照雄 計2名 合計7名

朝、自宅を出ると、外は濃い霧で視界が約200mまで下がっている。いつも西方面に見えるはずの蓬莱山等比良山系が、雲に覆われ全く見えない。今日の登山はどんな天気になるのか。JR安曇川駅まで来ると霧は晴れたが、なお曇天である。

午前9時00分 朽木温泉グリーンパーク思い出の森駐車場(標高270m)に集合 広い駐車場は車がほとんどなく、登山者も来ていないようだ。松下(L)は、参加者数を確認後、1/25,000の地形図・気象図・登山計画書を全員に配り、本日のコース(登山口→552m分岐点→カツラ谷分岐点→蛇谷ヶ峰 往復)を確認する。本日の登山の目的は、前回第8回と同様、読図練習と初冬の気象を体験すること 6本歯の軽アイゼンと防寒用帽子を持参する。それ程冷えていないが、午後の天気予報は曇り空で降水確率30%である。蛇谷ヶ峰に着く頃は雪になるかもしれない。

トップは松下(L)、ラストは村上(SL)で出発する。

午前9時30分 林道を20分程進むと、左側に登山口に到着

しばらくすると、溪流と平行して歩く。この溪流は、1/25,000の地形図に記載がない。水辺の岩の至る所に苔が付いている。一箇所徒渉するところがあり、滑りやすく慎重に歩く。登山道は良く整備されて歩きやすい。木々は葉を落とし、紅葉の秋が終わったのを感じる。11月の健幸登山教室第8回の赤坂山は、まだ落葉も進んでいなかった。夏なら木陰になるところが、地面まで光が届く。12月となり、登山者が減ってきたようだ。積もった落葉の上を歩くと、柔らかさが足に伝わってくる。夏山の登山道にはない感触だ。所々木の階段がある。次第に勾配が急になってきた。

1/25,000の地形図で蛇谷ヶ峰の方角と、磁石で蛇谷ヶ峰までの距離を確認する。

GPSでも同じ作業をする。

午前10時45分 朽木いきものふれあいの里跡からの登山道との分岐点(552m)と557m地点に到着

道標には、出発地のグリーンパーク思い出の森からは2.3km、蛇谷ヶ峰へは1.8km

との表示がある。ここから麓の朽木は、雲海に包まれて何も見えない。遠くの山の山頂が雲の上にあり、まるで海に浮かぶ島のようなのである。

午前 11 時 30 分 カツラ谷分岐点 (867m) に到着

今朝降ったのかもしれない。地面に雪がついている。ここから山頂まで急な勾配が続く。行く手が一時雲に覆われそうになったが、直ぐ去っていった。

午前 11 時 45 分 蛇谷ヶ峰 (901m) に到着

積雪は 5 cm 位ある。木々の枝にも雪が付いている。山頂は平坦で広い。雲海が下界のグリーンパーク思い出の森から琵琶湖の全体を覆っている。東方面は、伊吹山の山頂が見える。一方南西方面は、手前に地藏山、遠くに釣瓶岳・武奈ヶ岳が見える。北西方面は百里ヶ岳だが、小さくてどの山か確認できない。朝、登ってきた朽木の稜線が見える。山々は、落葉した樹林の淡い灰色と、常緑の樹林の緑色が混ざった 2 色で覆われている。あと 1, 2 週間もすれば雪が本格的に積もると、全体が白く変わるのだろう。今日は終日曇天だが、軽アイゼンを使うこともなく、無風で山頂付近は視界が良い。下山する。下山はストックを使う。

午後 0 時 5 分 カツラ谷出合 (867m) に到着

ここで長い休憩を取る。毎回荷物がかさばり重くなるため、村上(SL)に荷物のパッキングの仕方・要不要な物の聞く。午後 1 時 5 分下山

午後 1 時 40 分 朽木いきものふれあいの里跡からの登山道との出合 (552m) と 557 地点に到着

この時期の初冬の登山は、枯れた樹林を見ながら落ち葉の中を歩く。時たま野鳥の囀りが聞える。とても気持ちが落ちつく。

午後 2 時 45 分 登山口に到着

比良山系や高島トレイルの山は、荒れた登山道や、徒渉の多かったり迷いやすい登山道があるが、この蛇谷ヶ峰の往復ルートはよく整備された歩きやすかった。

くつき温泉てんくうで入浴して下山する。